

PL. 3 調査地（山地帯・火山地形・草原）



5月の山地帯夏緑広葉樹林（共通調査地点 St. 4）
富士北麓地域の生態系多様性を支える地域。撮影：篠田



11月の山地帯夏緑広葉樹林（St. 4）
植物の種類が多く紅葉もたいへん美しい。撮影：篠田



溶岩洞穴
富士山は世界でも有数の溶岩洞穴が集中する地域である。撮影：篠田



溶岩洞穴
特殊化した洞穴性生物の生息地となっている。撮影：篠田



山地帯ヒノキ自然林（共通調査地点 St. 5）
溶岩流上に特徴的な植生のひとつ。撮影：萩原



山地帯アカマツ自然林（共通調査地点 St. 6）
溶岩流上に特徴的な植生のひとつ。撮影：萩原



山地帯二次草原
富士山麓には古い時代からの人為的な草原が多い。撮影：篠田



山地帯二次草原（共通調査地点 St. 7）
植生調査の様子。植物の出現種類数は多い。撮影：篠田

PL. 4 生物相調査 植物 (維管束植物)



ミヤマヤナギ (ヤナギ科)
高山帯の代表的先駆植物。撮影：磯田



オノエイトドリ (タデ科)
別名メイゲツソウ。高山帯に多い。撮影：磯田



フジハタザオ (アブラナ科)
富士山を基準産地とする代表的植物。撮影：磯田



ハクサンシャクナゲ (ツツジ科)
高山・亜高山帯の林床の代表種。撮影：磯田



シャクジョウソウ (イチヤクソウ科)
安定したシラビソ林床に生える腐生植物。撮影：磯田



スズサイコ (ガガイモ科)
国 RD 絶滅危惧Ⅱ類。草原性。撮影：磯田



オミナエシ (オミナエシ科)
山地帯二次草原を彩る代表的な草原植物。撮影：磯田



キキョウ (キキョウ科)
国 RD 絶滅危惧Ⅱ類。草原性。撮影：磯田



ヒメヒゴタイ (キク科)
国 RD 絶滅危惧Ⅱ類。草原性。撮影：磯田